

宮古島産液肥を利用しよう!

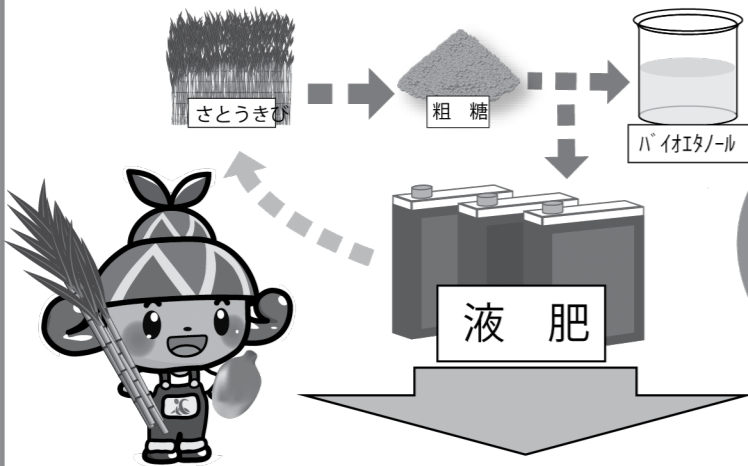
～ サトウキビからできた液肥のお知らせ～

宮古島市では、サトウキビの糖蜜からバイオエタノールを製造しています。その製造過程でできる残渣液から農業用液肥ができます。

特徴

- ①サトウキビを原料にした発酵液体肥料
- ②アミノ酸、有機酸、微量元素、糖分入り
- ③希釈倍率が高いので経済的
- ④灌水施肥、葉面散布兼用

宮古島産肥料で
島の農業を元気に



今年度から
宮古島市肥料補助
の対象となりました。

果菜類、葉茎類、果樹類、花卉類など作物全般。芝の生育にも。



農家の声

生育が
良くなった!

元気が出た!

収穫量が増えた!

美味しくなった!



インゲン収量13%↑
マンゴー糖度20%↑
ゴーヤ 収量12%↑
※ハウス試験

全3種類

- ・ぱにぱに
- ・がんずう
- ・あぱらぎ

■お問合せ：
日本アルコール産業(株)
宮古島事業所
☎ 76-3977

有機入り複合肥料

ていだの恵み

6月23日は慰霊の日

— 2017年5月15日、沖縄は日本復帰45年の節目を迎えました。 —

1961年、米軍占領下の琉球政府時代に始まり、沖縄戦の悲惨な体験を語り継ぐ大切な日として続いて来た「慰霊の日」は今年で56年目を数えます。

「アメリカ世」から「大和世」へ。激動の時代を見守ってきた慰霊の日の歴史を振り返り、平和への想いを次世代へ継承していきましょう。

慰霊の日って何だろう？

太平洋戦争末期の1945年3月26日、米軍の慶良間諸島上陸により始まった沖縄戦は激しい地上戦の末20万人以上の尊い命が失われました。

同年6月23日、第32軍司令部 司令官・牛島満中将と参謀長・長勇小将の自決により、沖縄戦の組織的戦闘は事実上の終結を迎えた。その後も戦闘は散発的に続いていくが、県民の間では「沖縄戦は、組織的戦闘をやめた6月23日に事実上終わった」とされています。(公式に終結したのは沖縄戦降伏文書への調印が行われた同年9月7日。)

沖縄戦から16年が経過した1961年、琉球政府は「住民の祝祭日に関する立法」を制定。沖縄戦の終わった6月23日を、沖縄戦で犠牲になった人々の霊を慰め、併せて世界の恒久平和を祈願する「慰霊の日」と定め、復帰前から沖縄独自の公休日として毎年全県を挙げて慰霊祭を実施してきました。

消えた「慰霊の日」

日本復帰まで、6月23日の慰霊の日は沖縄戦の悲惨な体験を語り継ぐ重要な日として定着していました。しかし、1972年に本土復帰後日本の法律が沖縄にも適用され、国民の法定休日も全国一律となったため、住民の休日としての「慰霊の日」はその法的根拠を失い消滅しました。(一部「地方自治体の休日(役所の休日)」としてのみ残る)

その後、1988年週休2日制の導入により地方自治法が改正され、地方自治体の休日は国の機関に合わせ①日曜日及び土曜日 ②国民の祝日 ③年末年始の3つ(第4条の2)と定められました。

これに伴い、休日としての慰霊の日は廃止の手続きが進められることになったが「沖縄戦の風化を早める」として県民世論は猛反発。ついには中央政府までも動かし、1991年6月、地方自治法は再度改正され、「地方公共団体において特別な歴史的、社会的意義を有し、住民がこぞって記念することが定着している日で休日とすることについて広く国民の理解を得られるようなものは休日として定めることができる」(第4条3項)と定められ、慰霊の日は沖縄県の「公休日」として復活しました。

【参考資料】・復帰25年の回想：宮里 松正 // 著

・オキナフを平和学する!：石原 昌家 / 仲地 博 / C・ダグラス・ラミス // 編



▲ 昨年の式典の様子

宮古島市全戦没者追悼式 及び 平和祈念式

～ どなたでもご自由に参加できます。ぜひご来場ください。～

【日にち】平成29年6月23日(金) 開場：11時 / 開式：11時50分

【場所】マティダ市民劇場 入場無料

【お問合せ】宮古島市 福祉政策課 ☎ 72-3751(代表)